

特別企画：四国地区 建設業売上高上位 20 社 業績動向調査（2020 年度）

2020 年度の業績、売上高・利益額合計ともに過去 5 年間で最高

はじめに

国土強靱化やインフラ老朽化対策などで公共工事は比較的堅調に推移してきたが、民間工事については、新型コロナウイルス感染拡大による景況感の悪化を受けて設備投資が落ち込み、弱含みとなっている。また、2021 年度に設備投資を行う予定が『ある』と考えている四国の企業は 57.6% となり、新型コロナの影響で大幅に減少した前年度（54.9%、2019 年度予定比 13.0 ポイント減）を 2.7 ポイント上回ったものの（帝国データバンク高松支店「四国地区 2021 年度の設備投資に関する企業の意識調査」）、「先行きを見通せない」とする企業からの声も多く聞かれた。そうした経営環境下で、四国地区の主な建設業者の業績はどのように推移しているのだろうか。

帝国データバンク高松支店は、2021 年 9 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」（147 万社収録）の中から、2016 年度（2016 年 4 月期～2017 年 3 月期）から 2020 年度（2020 年 4 月期～2021 年 3 月期）まで 5 年間の決算の売上高と利益額が比較可能な、四国地区に本社が所在する建設業売上高上位 20 社を抽出し、売上高別、利益額（当期純利益）別、売上高ランキングについて分析した。

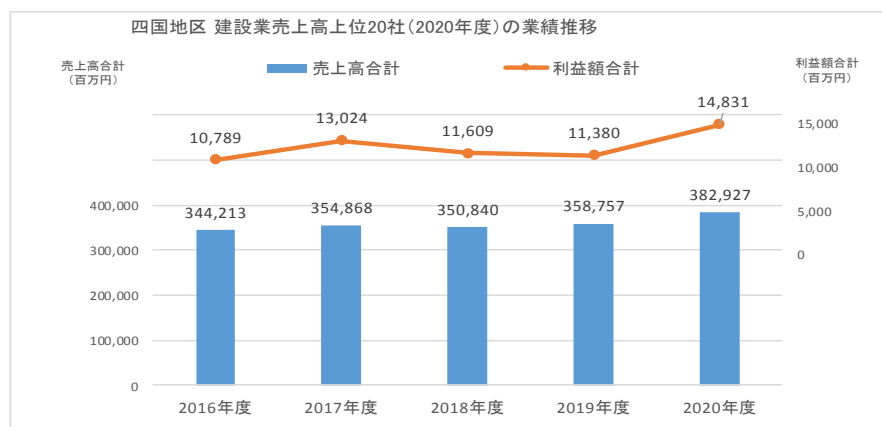
調査結果（要旨）

1. 2020 年度の売上高合計は 3,829 億 2,700 万円

前年度と比べて 241 億 7,000 万円（6.7%）多く、過去 5 年で最高に

2. 2020 年度の利益額合計は 148 億 3,100 万円

前年度と比べて 34 億 5,100 万円（30.3%）多く、過去 5 年で最高に



1. 売上高合計推移、過去 5 年で最高

四国地区に本社が所在する建設業売上高上位 20 社について、2016 年度～2020 年度決算の売上高合計をみると、2020 年度は 3,829 億 2,700 万円となり、前年度と比べて 241 億 7,000 万円 (6.7%) 多く、2 年連続で増加したほか、過去 5 年で最高となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で一部に工期の延長があったほか、大型案件の売上計上が翌期にずれ込むなどで減収となった企業があったものの、公共工事の発注が堅調であったことや大型案件もあり、売上高合計の増加につながったとみられる。

増減収 (3%以上) の社数別内訳は、増収が 11 社、減収が 8 社、横ばいが 1 社であった。

年商規模別の売上高合計をみると、「100 億～500 億円未満」が前年度比 31.6%減となったものの、「100 億円未満」が同 9.8%増、「500 億円以上」が同 53.3%増となり、全体を押し上げた。

(単位: 百万円)

年度	売上高合計	前年度比 (%)	売上高合計 (年商規模別)		
			100億円未満	100億～500億円未満	500億円以上
2016年度	344,213	2.9	65,199	212,066	66,948
2017年度	354,868	3.1	94,413	186,058	74,397
2018年度	350,840	▲ 1.1	74,435	153,038	123,367
2019年度	358,757	2.3	77,263	157,127	124,367
2020年度	382,927	6.7	84,822	107,423	190,682

2. 利益額合計推移、過去 5 年で最高

2016 年度～2020 年度決算の利益額合計 (当期純利益) をみると、2020 年度は 148 億 3,100 万円となり、前年度と比べて 34 億 5,100 万円 (30.3%) 多かった。3 年ぶりに前年度を上回ったほか、5 年連続で 100 億円以上となり、過去 5 年で最高となった。

増減益の社数別内訳は、増益が 8 社、減益が 12 社であった。増益となった企業数よりも減益となった企業数の方が多かったものの、比較的利益率の良い案件を手がけたことで大幅増益となった企業が多く、利益額合計の増加につながったとみられる。

年商規模別の利益額合計をみると、「100 億円未満」が前年度比 22.7%増、「100 億～500 億円未満」が同 6.5%増、「500 億円以上」が同 63.0%増といずれも増加した。

(単位: 百万円)

年度	利益額合計	前年度比 (%)	利益額合計 (年商規模別)		
			100億円未満	100億～500億円未満	500億円以上
2016年度	10,789	19.7	1,512	8,140	1,137
2017年度	13,024	20.7	3,300	7,712	2,012
2018年度	11,609	▲ 10.9	2,660	4,507	4,442
2019年度	11,380	▲ 2.0	2,583	4,744	4,053
2020年度	14,831	30.3	3,170	5,053	6,608

3.まとめ

今回の調査で、四国地区に本社が所在する建設業売上高上位 20 社の 2020 年度の売上高合計は 2 年連続で前年度を上回り、過去 5 年で最高となったほか、利益額合計も 5 年連続で 100 億円以上となり、過去 5 年で最高となったことがわかった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で一部に工期の延長があったものの、公共工事の発注が堅調であったことや大型案件もあり、売上高合計の増加につながった。また、比較的利益率の良い案件を手がけたことで大幅増益となった企業が多く、利益額合計の増加につながった。

2021 年度に入っては、引き続き公共工事の発注が堅調である一方、新型コロナウイルス感染拡大にともなう先行き不透明感から、民間企業における 2020 年度の設備投資が抑制されたことで受注自体が減少した企業もあり、2021 年度の売上高合計への影響が懸念される。また、落ち着いてきたとはいえ、一時期みられた輸入木材の高騰、いわゆる「ウッドショック」や、コロナ禍での港湾処理能力の低下並びにコンテナ不足、燃料価格の上昇による輸送運賃の値上がりなどが収益面に影響するとみられることから、引き続き動向をみていく必要がある。

<参考>

四国地区 建設業売上高上位20社 2020年度売上高ランキング (単位:百万円)

順位	商号	所在地	年売上高 (2020年度)	前年度比 増減	前年度比 増減率(%)
1	株式会社 四電工	香川県	76,412	↑	7.5
2	株式会社 合田工務店	香川県	59,235	↑	11.2
3	四電エンジニアリング 株式会社	香川県	55,035	↑	11.1
4	四国通建 株式会社	愛媛県	33,927	↑	42.8
5	大旺新洋 株式会社	高知県	21,717	↑	8.2
6	株式会社 一宮工務店	愛媛県	20,953	↑	28.5
7	フジケンエンジニアリング 株式会社	愛媛県	10,686	↓	▲ 14.6
8	株式会社 姫野組	徳島県	10,110	↓	▲ 6.0
9	ミサワホーム四国 株式会社	香川県	10,030	↓	▲ 12.6
10	株式会社 小竹組	香川県	9,346	↓	▲ 26.4
11	株式会社 ドコモCS四国	香川県	9,034	↓	▲ 1.7
12	株式会社 三好鉄工所	愛媛県	8,298	↑	12.7
13	株式会社 技研施工	高知県	7,709	↑	25.0
14	積和建設四国 株式会社	香川県	7,681	↑	3.1
15	株式会社 轟組	高知県	7,598	↑	8.6
16	井原工業 株式会社	愛媛県	7,577	↓	▲ 17.9
17	株式会社 カナック	香川県	7,491	↓	▲ 4.3
18	マルマストリグ 株式会社	愛媛県	6,885	↓	▲ 15.7
19	株式会社 岸之上工務店	高知県	6,605	↓	▲ 23.5
20	株式会社 ニシテック	徳島県	6,598	↑	5.6

【 内容に関する問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク 高松支店 担当：須賀原 欣彦、道田 祐一

TEL：087-851-1571 FAX：087-851-3837

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。